

鈴

【Suzukake】

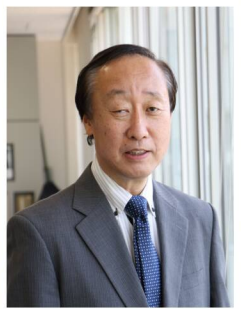
恋

2022 (令和4) 年度 第1号
No.186

発行日 2022年5月23日 (月)

八王子学園八王子中学校・高等学校 広報誌
〒193-0931 東京都八王子市台町4-35-1
TEL. 042-623-3461(代) FAX.042-626-5646

URL.<http://www.hachioji.ed.jp>
E-mail. info@hachioji.ed.jp



新入生のみなさんへ

学校長 小山 貞

八王子学園八王子中学校・高等学校入学生の皆さん、保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。入学生の皆さんは新しい学校生活を迎え、中学生は長くなった通学距離、中学での学習に、そして高校生は義務教育を終え各自の自覚と責任が今まで以上に増す高校生活への希望と不安に胸を膨らませているかと思えます。また、保護者の皆さまにおいては、新しい制服を身に着けたお子様たちをご覧になり目を細めていることと存じます。

さて、八王子学園八王子中学校・高等学校は文武両道の進学校です。学園モットーである「人格を尊重しよう」「平和を心につちかおう」を理念として共有しています。では「人格」とは何でしょうか。色々な考え、好き嫌い、夢……。誰もがそれぞれ心に持っている基本的な感情です。他の人から人格を踏みにじられたら、誰もが悲しみ憤り、許しがたい気持ちになるでしょう。お互いに相手の人格を尊重することは大切なことです。

しかし残念なことに、SNSなどでは相手の感情に気付かず友人関係を損ねたり、いじめにつながる事が多く起きています。世界に目を転じれば、ロシアのウクライナ侵攻。これらのことは、困った問題です。相手を理解し、相手の気持ちを尊重することが重要です。

そして、更に大切なことは、人から尊重される人格を各自が育てていくということです。その人格を色々な人たちから理解してもらい、共感や協力を得ていく。人格の尊重とは、お互いに理解し尊重し合うことから始まるのです。

最後にもう一つ、入学にあたり皆さんにお願いしたいのは、夢を育ててくださいということです。驚くことに、近年の調査では夢を抱けない20歳の若者が70%もいるというので、今が幸せと思うしかないからだそうです。全く夢の無い話です。

皆さんのお祖父さん、お祖母さんが若かった時代である昭和30年代から40年代は、第二次世界大戦後の高度経済成長期でした。現在が貧しくとも少し頑張れば、自家用車や一軒家が購入できたりした時代です。今苦勞をしても将来に夢が持てた時代でした。

しかし、いまのような閉塞感漂う時代に夢を語るのには、抵抗を感じる人も多いかもしれません。今の若者は現在こそが幸福の頂点と受け取りがちだ、という識者も多数います。社会の物質的な水準そのものが高くなって、クーラーもあれば、冷蔵庫も、洗濯機も、カラーテレビも、パソコンも、スマートフォンもある。コンビニに行けば食糧も豊富である。昭和40年代の高度成長期に比べれば物質的に豊かになっているのは間違いありません。そして、将来に目を向ければ少子高齢化社会の到来です。

是非、夢を持ってください。夢にも少しの努力で達成できるものもありますし、ノーベル賞を獲る、プロ野球で三冠王を獲る等、達成が難しいものもあります。大きな夢を持ち、その夢に向かって毎日少しずつ「達成できる夢」をクリアしていった欲しいと思います。そして、達成感を得ながらそれを励みにして大きな夢に立ち向かっていってください。八王子学園で、皆さんが有意義な学園生活を送るよう願っています。



各学年主任からのメッセージ



大人への第一歩

中学1学年主任 谷口 明博 先生

入学から1ヶ月がたちました。初めての環境、初めての通学方法、初めての人間関係、初めての校則、初めての学習方法、初めての部活動……初めてづくめで大変だったのではないかと思います。この1ヶ月で多くのみなさんは日常を送る上で困らない程度には学校生活に慣れることができたように思います。次の段階としては、今以上に周りに目を向けられるようになってください。そのとき、その場所で、その言動をしたとき／しなかったときにどうなるのか、それが周囲の人たちにどう影響するのかについての想像力を持ってください。中高6年間は子どもが社会性を身につけた大人になるための期間です。思いのままに行動する子どもは無邪気かわいいかも知れませんが、感情のおもむくまま後先考えず行動する大人は周囲に多大な迷惑をもたらすことがあります。しっかり自分をコントロールし、自分の思いと自分の社会的立場（家族・友人関係・クラス・部活動・学校・自分が住んでいる地域等々これらはすべてみなさんが属する社会です）のバランスの取れる大人への成長を期待します！



これも絶対できる

中学2学年主任 岡野 道雄 先生

男子生徒の短くなったズボンの裾。朝読書の時間に、黙々と活字を追う真剣な眼差し。部活動で後輩に指導する姿。学校生活を送る皆さんを見てみると、身体だけではなく精神的にも着実に成長を遂げていることに気づかされます。高尾山遠足、探究ゼミ、水泳教室、読書課題…。昨年の皆さんは、与えられた課題をこなし、出された指示を確実に実行してきました。その1年間は、「小学7年生」だった皆さんを、頼もしい「中学生」へと成長させる期間となったようですね。「これはちょっと難しいかなあ…」 「これはできないかなあ…」 と思いながら皆さんに指示を出すことが何度ありました。それは、始める前から「ハードルを下げる」ような行為だったのかもしれませんが。「このくらい難しくてもできるだろう！」、今年はこの考えて中学2年生の皆さんのさらなる成長を見届けたいと思っています。「これも絶対できる！」、皆さんはこう考えて進んで行ってください。



中学最高学年として

中学3学年主任 橋本 順子 先生

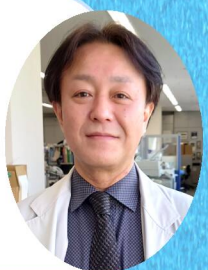
いよいよ中学生生活最後の年となりました。残りの一年間をどう過ごすのかそれぞれイメージは膨らんでいるでしょうか。新学期すぐの学年集会では、今年度の一番の目標は高校進学に向けての自立であるということ、そして中学の最高学年として後輩たちにとっての模範となろうという話をしました。世間一般で言えば中学三年生は受験勉強に多くの時間を費やす時期です。それに対してあなたたちには精神的にも時間的にもかなりの余裕を与えられています。その余裕を何に活かしていくかがそれぞれの個性の見せ所であり、将来のあなたたちを形作る一端にもなっていくでしょう。これまでの自分たちがそうであったように、後輩たちもあなたたちの姿を見ながら日々成長していきます。運動会や合唱コンクールで自分たちが活躍する姿を後輩たちの心にしっかりと刻みつけられるような、そんな思い出に残る一年間を送ってもらいたいと願っています。



発見と学び

高校1学年主任 新井 武広 先生

1年生の皆さん、徐々に八王子高校の生活にも慣れてきましたか。初めは迷路のように感じた校舎も、どこに何があるか徐々に分かってきたのではないのでしょうか。でもまだ「こんなところに〇〇がある」といった発見もあるのではないのでしょうか。以前にも書きましたが「学ぶ」の語源は「まねる」といわれています。学習だけではなく、学校生活全般において友達・先輩そして先生の良いところ、自分もこうありたいと思うところを発見し、まねてみて下さい。自分から積極的に発見をしようと思えば、学ぶ姿勢を続けていくことで、心と身体の成長とともに学力の向上も図れるはず。日々の変化は僅かでも、きつこの3年間で大きく成長できるはず。思春期の仕上げの時期の皆さんはスポンジのように色々な事柄を吸収できるはず。



「SKILLよりWILL」～日々少しの改善～

高校2学年主任 長塚 保彦 先生

「SKILLよりWILL」という言葉はいろいろなところで使われているが、「能力や技術」がいくらあったとしても、「意志」がなければうまくいかないということである。生きていく環境により人間は成長できる可能性が大いにあるということである。気持ち次第でいくらでも変えられるチャンスがある！また、「日々少しの改善」は大胆な改革や変化も時には効果的であるが、毎日の生活で気になったことを気になった時に少しずつ直していくことが大切である。何事も一度にまとめて変えるためには大きなエネルギーが必要だ。面倒くさい。それなら、気がついたときに少しずつ良い方向に改善していく方がよっぽど楽で簡単であるはずだ。2年生では修学旅行という3年間の中で大きな学校行事がある。また、部活動でも主力なポジションにもなっていく。そして、受験勉強も本格的に始まっていく。是非1日1日を今までより大切に意識してほしい。



間違いの効用

高校3学年主任 多比羅 拓 先生

いつも正しい答えが得られるという状況は、人の考える能力を低下させます。人は試行錯誤、つまり間違えることから学ぶことを成長と捉え、それを「楽しんで」きたのです。喜劇のコントの基本は間違えて笑いを誘い、最後はその間違いに気づくことが面白いのです。逆に「悲劇」は、取り返しがつかない運命に永遠に縛られることに、恐怖と悲しみを覚えるのではないのでしょうか。生物学者の小林武彦さんのことばです。「コント」「悲劇」の定義は色々ですが、間違えることにも効用があると気づかされます。Z世代の特徴として、「自分らしさ」「多様性」と共に「効率」を重視する傾向があると言われます。「コストパフォーマンス」に加えて「タイムパフォーマンス」ということばが出てきたのも、最近のことのように思います。高3の皆さんは特に入試に向けて問題が解けず落ち込むこと、効率的な勉強法が見つからずに悩むときがあるかもしれません。間違いや失敗を無駄と切り捨てるか、学ぶこともあるかと思えるか。視点や引き出しは多く持っていたいものです。間違えた箇所も伸びしろ…のはず。



新任の先生方より



一ツ木 歩 先生 (国語科)

初めまして、今年度より八王子高校でお世話になっております。国語科の一ツ木歩（ひとつき あゆみ）と申します。所属は高校2年生です。高校生の頃は吹奏楽部に所属していました。自分たちの出番の直前が八王子高校の吹奏楽部だったあの年のコンクールのことは今でも鮮明に覚えています。上手すぎる八王子吹奏楽部の演奏を舞台袖で聞かなければならないあの絶望感…。懐かしいですね。八王子高校にきてびっくりしたことは、校舎の大きさです。9階建て！？みたいな。エレベーターが4つあるのにも驚きました。いい運動だ！と思って階段を使うようにしているのですが、暑い季節が来たら挫けてしまいそうです。エレベーターで私と遭遇したら優しく迎え入れて下さい。お願いします。最後に好きなものをたくさん書いておきます。音楽、美味しいもの、ディズニー、絵本グッズ集め、ハリーポッター、絵、服、お笑い、文房具、散歩…こんな感じです。まずはみなさんとの距離を縮めていければいいなと思っています。これからよろしくお願いします！



市川 健吾 先生 (地歴科)

皆さん、初めまして。今年度より八王子学園で地歴の授業を担当している市川健吾です。所属は高校2年で、素直で頑張り屋な生徒に囲まれ、身が引き締まる思いで日々教壇に立っています。自分の高校時代を振り返ると、バドミントン部での思い出が最も印象に残っています。仲間と過ごした楽しい思い出もありますが、最後までレギュラーメンバーになれなかったことや厳しい練習を乗り越えてきたのに勝利をつかめなかったことなど、悔しいことの方が強く思い出されます。それでも全力で取り組んだことそのものが財産で、その中には学びがありました。特に学んだことは、ねらいをもって行動することです。ただ与えられたメニューをこなすより、何ができるようになるためのメニューなのかを考えて取り組むことが大切です。これは、どんなことにもあてはまると思っています。皆さんの全力と向き合い、それに応えられるように私も成長したいと思います。よろしくお願いします！！



島田 和泉 先生 (国語科)

みなさん初めまして。こんにちは。今年度八王子学園でお世話になります国語科の島田和泉です。所属は高校2年生です。よろしくお願いします。八王子学園の生徒のみなさんは、それぞれがそれぞれの分野で日々努力しているような印象を受けています。そのようなみなさんの様子を見て、微力ながら少しでもみなさんのお役に立てるよう、私も日々精進しようという思いを持って様々なことに取り組んでいます。また、八王子学園に赴任してから特に感動したことがあります。それは生徒のみなさんが当たり前のようにお互いを認め合っているということです。自分と異なる存在を尊重するという姿勢は大人になれば自然と身につくというものではありませんが、この度はみなさんが世の中には多様な存在がいるという前提で会話を進めている姿を目の当たりにすることができました。どうかみなさんがそのような考えを持ったまま成長し、優しい世界をつくってくれますように、と強く願っています。



玉野井 大樹 先生 (地歴科)

みなさん、こんにちは。今年度より八王子学園で社会(地歴)の授業を担当しています、玉野井大樹です。所属は中学1年です。校内で会った際には気軽に話しかけてもらえたらうれしいです。私が八王子学園の大きな魅力だなと感じているのは、いろんなことにチャレンジする機会、たくさんの人が活躍する機会があることです。難関大学への進学に向けて集中して勉強している生徒、大会やコンクールで結果を出すために部活動に打ち込む生徒、すばらしい作品をつくって芸術分野で活躍する生徒など、毎日いろんな様子を見ることができて刺激をもらっています。中学・高校の6年間は、みなさんがイメージしている以上に貴重でかけがえのない時間だと思います。この3年間あるいは6年間で努力したことはみなさんの財産となるはずです。また、一緒に努力した仲間、たくさんの思い出を共有した友だちは、他の場所ではなかなか出会えません。ぜひ、この学校でたくさんのことにチャレンジして、充実した生活を送ってください。みなさんの学校生活に関わることができるのを楽しみにしています。





昨年度の進路結果



2022年度大学入試の最大のポイントは、“大学入学共通テスト導入2年目の入試”という点でした。導入元年入試での不透明感も払拭され、2021年度入試における新型コロナウイルス流行による地方受験生の流入減と首都圏受験生の受験校数減からの反動もあり、結果として、2022年度一般選抜における首都圏私立大学の出願指数は小幅ながら増加に転じました。文系理系別でみると、経済不況時特有の「理高文低」という状況でした。文系学部はほぼすべての系統で減少していましたが、法律政治学系のみ増加で、まさしく景気低迷に伴う公務員志向の層が増したためと考えられます。逆に理系はほぼすべての系統で増加していますが、医・看護・保健系はコロナ禍で医療従事者の勤務の困難さが話題になり、それを避けたのか、若干減少傾向でした。

2022年度大学入学共通テストでマスコミを賑わせた「数学ショック」という表現は記憶に新しいことでしょう。国語と数学I・A、数学II・B、英語の「基幹3教科」平均点合計は600点満点中318.78点。前年比で31.30点ダウンしました。特に、数学I・Aの平均点は40.25点で、前年比17.43点ダウン。数学II・Bの平均点は45.89点で、前年比14.04点ダウン。センター試験時代から共通テストまで通じて過去最低となりました。問題文も長く、計算量が多く、苦戦した受験生も多かったようです。

本校では4年制大学進学率が80.4%で過去最高となり、4年制国立大学合格者数は32名、4年制私立大学合格者数は371名という結果になりました。今年度もコロナ禍で推薦入試利用者が増加しましたが、生徒の成績が良かった事、国立大学を諦めずに出願した事、英検取得に努力した事、共通テスト利用私大への出願が増加した事、等々合格を勝ち取らんとする強気の出願傾向となり、大学合格者数増加につながったと分析しております。

大学群別に見ますと、早慶上智理科大延べ合格者数合計37名、MARCH（明治・青山学院・立教・中央・法政各大学）延べ合格者数合計192名、医歯薬獣医（国公私立大学）合計15名、津田塾・東京女子・日本女子大延べ合格者数合計31名、等々大躍進の学年でした。他に短期大学進学者数は5名、専門学校進学者数は20名、就職者数は本校史上初の高卒からプロ野球界に身を投ずることになった西武ライオンズ入団の羽田君を含めた4名でした。

2021年度卒業生の皆さんは学習への取り組みの直向きさと真面目さが際立っていた学年であったと痛感しております。こんな社会情勢不安な環境下でも努力を惜しまず進路指導室や自習室、個別学習ブースで受験勉強に勤しんでいた生徒たちが、まさに受験生の真の姿を見せてくれたと思っております。

進路指導部

●進路決定率の推移

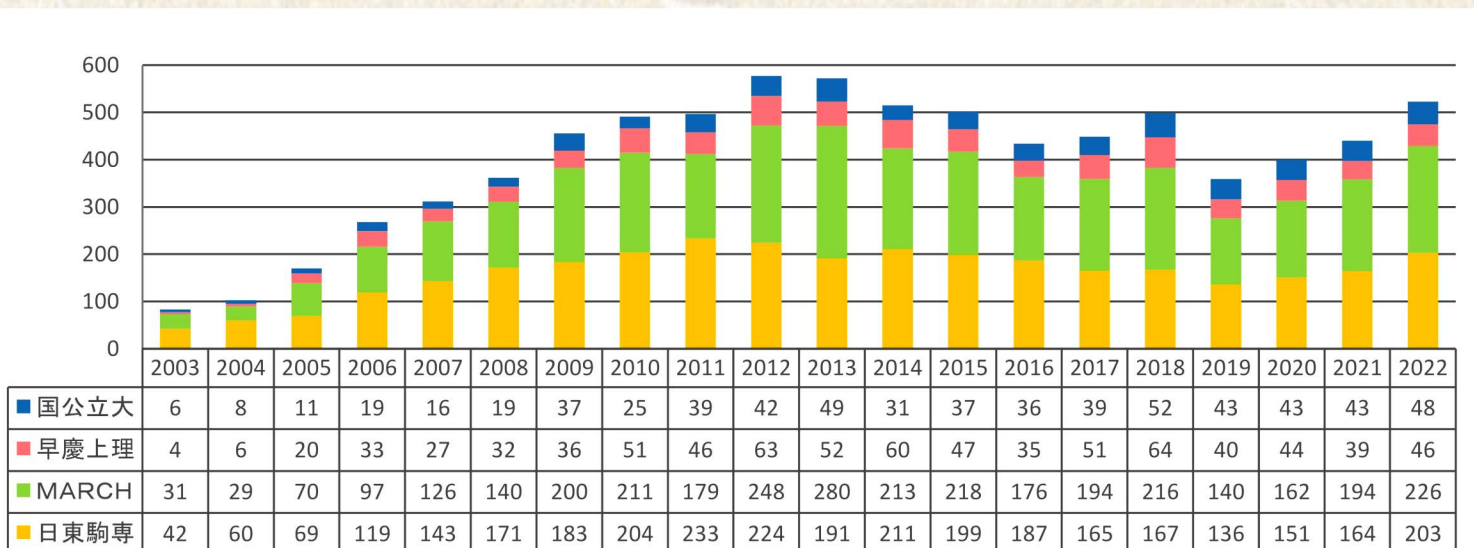
種別\入試年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大学進学率(入学率)	74.8	68.4	65.6	70.7	71.7	79.0	80.4
短大進学率(入学率)	0.9	1.7	1.5	0.6	1.3	0.8	1.0
専門学校進学率(入学率)	2.4	1.9	4.9	3.9	2.3	5.4	4.0
就職決定者数(希望者数)	0(0)	2(2)	4(4)	2(2)	0(0)	2(2)	4(4)

●2022年3月卒業生 進路内訳

区分	男子	女子	合計	
進学	四年制大学	168 (78.50%)	235 (81.88%)	403 (80.44%)
	短期大学	1 (0.47%)	4 (1.39%)	5 (1.00%)
	専門学校	4 (1.87%)	16 (5.57%)	20 (3.99%)
就職	1 (0.47%)	3 (1.05%)	4 (0.80%)	
進路未定	40 (18.69%)	29 (10.10%)	69 (13.77%)	
卒業生 合計	214 (100%)	287 (100%)	501 (100%)	

※大学入学共通テスト出願者数：389名

●大学合格者数推移



※全ての数値は4月当初時点の判明分であり、変動する場合があります。

中学 学年別校外学習

中学各学年で4月28日（木）に校外学習が行われました。天候にも恵まれ、学年・クラスの親睦を深めるとともに、充実したフィールドワークの1日となりました。

●中学1年：高尾山（自然観察・食育・探究）



●中学2年：浅草（班別行動練習・探究）



●中学3年：TGG (TOKYO GLOBAL GATEWAY)（実践的語学研修）



●富士サファリパーク (1・10・12組)



高校1年生 日帰り旅行

2022年
4月28日(木)

●鎌倉と新江ノ島水族館 (3・4・8・11組)



●三島スカイウォークと沼津港深海水族館 (5・6・7・14組)



ゴールデンウィーク間近の4月28日(木)、高校1年生の日帰り旅行が行われました。入学して間もない1年生同士の相互交流を目的として実施されるこの日帰り旅行。14クラスが4方面のコースに分かれ、気持ちの良い天候のもとお互いの親睦を深めることができました。高校生活の思い出の、最初の1ページに刻まれたことと思います。



●日光東照宮・大谷資料館 (2・13組)



英語科

近藤 実央
先生

—先生という職業を目指したきっかけは何かありますか？

中学生の時の担任の先生が、理科の女の先生で、3年間担任だったんです。私とはかけ離れた感じの…体育会系のめちゃくちゃ厳しい先生で。私がスカートを一折りしていただいただけで全校生徒の前で怒鳴られたことがあります(笑)すごく怖かったんですけど、熱い先生で、私もそういう子どもと関わる仕事がしたいなと思ったのがきっかけです。

—ここまで本気になってくれる先生になりたいなと？

そうですね。

—怒られたりすると「もうやだっ」とかトラウマになりがちですけど、そうはならなかったんですね。

怒られたときはもちろん「くそっ」と思いましたけど(笑)それ以上にやっぱり熱い！体育祭などの行事でも私たちより本気、みたいな。その熱意に憧れました。

—心の奥底で求めていたんですね！本気で怒ってくれる人を(笑)

先生以外にやってみたいことはなかったんですか？

教員になりたかったけど難しそうというイメージがあって、普通に就活して、一応内定はもらっていたんです。でも、その後に教育実習に行って、やっぱり教員がやりたいたいと思って、それで大学を卒業してから一年間アルバイトをしながら勉強して、ここに来たという感じです。

—どんなアルバイトを？

特別支援学級に通っている子が行く学童みたいな感じの所です。

—やっぱり教えるという方向に体が向いていたんですね。憧れていた先生は理科でしたが、近藤先生は英語というのは何か理由が？

理科は無理だなと思って・・・英語は消去法なんです。私の中で。社会もできないし、理科も数学もできないし、国語か英語で迷って、国語は漢字読めないし、ま、英語かなって(笑)。強い意志というよりは消去法で教科を選んでしまった感じなんです。英語もすごく得意だったということではなくて、まあ、昔から洋楽を聴いていたりしたので。

—どんなものを聴いていたんですか。

私は結構ミーハーなのでいろいろ聴いちゃいます。以前はマルーン5にはまっていた。ずっと好きなのはテイラースウィフトとエドシーランです。

—教える立場になってみて、英語のこういうところがいいなとか、逆に難しいなと思うところがありますか？

そうですね。私は自分が文法とかを勉強するのがあんまり好きじゃなくて。机に向かって暗記とかが苦手なんです。だからそれを子ども達に覚えると言うのが、自分も嫌いなのに、ちょっと抵抗があるというか。文法をどういうふうに教えたらいいかってところが、今も悩んで、探り探りやっている感じです。良い部分は、ありきたりになっちゃいますが、色々な人と話せるというのは楽しいと思いますね。

—先日、すごくフランクにリービット先生と話されていましたね。

いや、そんなにたいしたことは話してないですよ(笑)。家の近くでタヌキが出たと言って、タヌキの写真を見せてくれたから、へえ～って(笑)。でも大学2年の時にイギリスに半年だけ留学に行ったことがあります。語学力はあまり向上しなかったのですが、それまで日本人としかほぼ話したことがなかったので、イギリス人や、同じ語学学校に来ていた韓国人の子とK-POPの話など色々して、世界が広がったような気がしました。色々な人と話すのって楽しいなと。それができるのが英語の良さかなって思います。

—続きまして、先生の趣味とか特技は何かありますか？

趣味は、映画やドラマを観ることです。日本の恋愛系のドラマを観て、栄養を得ています(笑) 他には、犬を飼っているの、犬と公園で戯れています。あとは、ずっとクラシックバレエを習っていたので、ダンスやバレエが、特技ではないですけど好きです。今はテニス部の顧問ですけど、球技は全くできません(笑)足は速かったんですけど。ずっとリレーの選手でした！

—生徒へ先生からメッセージをお願いします！今の子ども達を見ていて感じることはありますか？

女子生徒同士が話しているのを見て、自分の高校生時代を思い出して「あーわかる！そういう時あるよね。」とか共感することが多いのですが、私の高校時代は先生とあまり距離が近くなって、頼ったりとか相談ができなかったんです。八学は、せっかく素晴らしい先生方が沢山いらっしゃるの、何か困ったことや、勉強面や生活面でも色々な先生に頼ったらいいんじゃないかなと思います。先生としてだけでなく、人生の先輩として少しお話するだけでも、せっかく沢山の先生がいらっしゃるの、もっと頼ってもいいんじゃないかなと最近思います。

—先生が通われていた高校と八学では、違うなと思うところがありますか？

全然違います。私は高校時代に先生と普段話したりすることが全然できなくて。厳しいわけではないのですが距離があって。この学校は先生と生徒の距離が近いなあって思います。なんでも話してくるじゃないですか。なんでだろうなって思ったんですけど、結構先生達がオープンだからかなって思いました。私は先生の素顔なんて高校の時は知らなかったし、どんな人かと知りたかったけど、この学校は先生のことを知りたいって思う子が多いなって思うので、それがすごくいいなって思いますね。

～近藤先生ありがとうございました！～



Mio Kondo